

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—84552

⑬ Int. Cl.³

H 04 B 9/00

H 04 M 3/00

識別記号

庁内整理番号

6442—5K

6446—5K

⑭ 公開 昭和58年(1983)5月20日

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑮ 伝送通信系と交換系との接続方式

⑯ 発明者 近森瑞世

東京都港区芝五丁目33番1号日

本電気株式会社内

⑰ 特 願 昭56—183519

⑱ 出 願 昭56(1981)11月16日

⑲ 出 願 人 日本電気株式会社

⑳ 発 明 者 力武秀雄

東京都港区芝5丁目33番1号

東京都港区芝五丁目55番1号日

㉑ 代 理 人 弁理士 栗田春雄

本電気株式会社内

明 細 書

1. 発明の名称

伝送通信系と交換系との接続方式

2. 特許請求の範囲

伝送通信系と交換系との間を接続する方式において、伝送通信系の分配盤と伝送系の分配盤との間に、前記の各分配盤にそれぞれ接続された伝送装置と、これらの伝送装置にそれぞれ接続された光伝送端局装置と、前記2つの光伝送端局装置間を接続する数本の光ファイバケーブルとが配設されていることを特徴とする伝送通信系と交換系との接続方式。

3. 発明の詳細な説明

本発明は伝送通信系を交換系に接続して使用する場合の伝送通信系と交換系との接続方式に関する。

従来のこのような伝送通信系と交換系との接続

方式としては、第1図に示すように、伝送通信系の分配盤VDFと交換系の分配盤MDFとの間を、1通話路ごとに銅線を芯線とする通信ケーブルにて接続しており、大容量局ではこの通信ケーブルとして数万ペアに及ぶペアケーブルを張りめぐらしている。

しかし、この方式では、両系間を接続するための材料(ケーブルラック、ケーブル等)、布設工数および布設所要面積が大容量局においては膨大なものとなっている。

本発明の目的は、前述したような不合理面を除去するために、両系間の接続方式としてコンパクト化された光通信方式を使用した接続方式を提供することにある。

本発明の構成について述べると、本発明は、伝送通信系と交換系との間を接続する方式において、伝送通信系の分配盤と伝送系の分配盤との間に、前記の各分配盤にそれぞれ接続された伝送装置と、これらの伝送装置にそれぞれ接続された光伝送端局装置と、前記2つの光伝送端局装置間を接続す

る数本の光ファイバケーブルとが配設されている伝送通信系と交換系との接続方式である。

以下本発明を実施例により図面を参照して説明する。

第2図は本発明実施例のブロック回路図を示す。第2図において、VDFは伝送通信系の分配盤であり、MDFは交換系の分配盤である。これらの2つの分配盤にはそれぞれ伝送装置4、4が接続されている。これらの伝送装置4、4にはそれぞれ光伝送端局装置3、3が接続されている。さらにこれらの2つの光伝送端局装置3、3の間には多数の伝送通信チャンネルを収容できる数本の光ファイバケーブル2が布設されている。

以上に説明したように、本発明によれば、伝送通信系と交換系との間の伝送に光通信方式を採用することにより、従来の両系間の膨大な量の通信ケーブルの代わりにコンパクト化された光通信装置を設置するのみでよく、ケーブル等の材料やその布設工数や布設所要面積を大幅に削減することができる等の幾多の優れた効果が得られる。

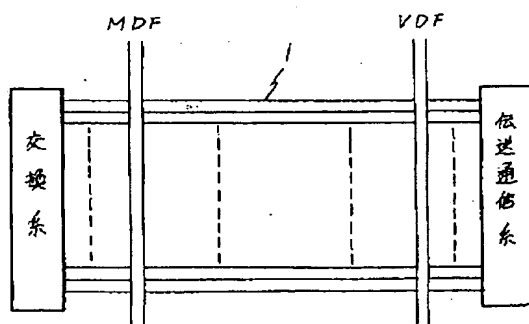
4. 図面の簡単な説明

第1図は従来の伝送通信系と交換系との接続方式の一例の回路図、第2図は本発明実施例の接続方式の回路図である。

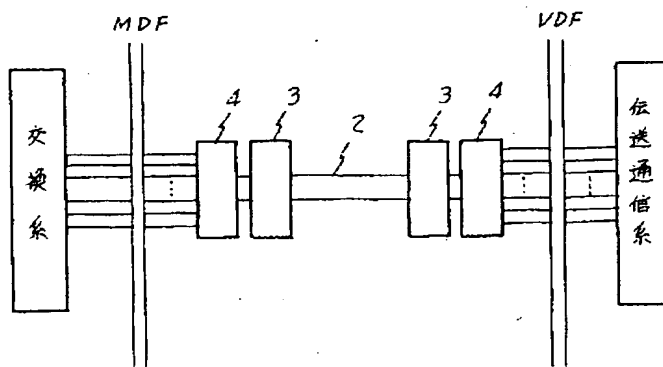
なお図面に使用した符号はそれぞれ以下のものを示す。

VDF……伝送通信系の分配盤、MDF……交換系の分配盤、2……光ファイバケーブル、3……光伝送端局装置、4……伝送装置。

代理人 弁理士 栗田 春 雄



第 1 図



第 2 図